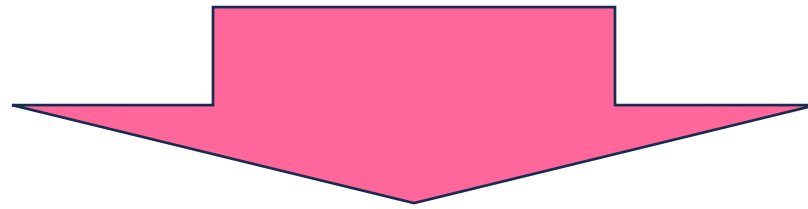


◎早期の口腔ケアと定期的な歯科受診は
認知症予防や進行抑制に有効

◎歯周病対策や咀嚼機能の維持、
家族・介護者の支援で生活の質を守る

- 歯科における認知症の人への対応は「共生」と「予防」に基づく、早期発見・軽度認知症患者に必要な相談や治療につなげること
- また、歯科は口腔機能の維持・向上や食支援等を通じて、認知症の人の生活の支援にも寄与する



- ★ 歯科治療への不安に対応した環境整備
- ★ 治療内容の理解を促進するための説明
- ★ 歯科治療中の不安を予測した治療上の配慮
- ★ 治療中の観察とストレスの軽減を図る対応

などを引き続き推進し、認知症の人及びその家族がいつでも安心して歯科受診できるよう取り組んでいく

【取組と課題】

- ★ 地域連携体制の構築
- ★ 認知症ケアパスの実効化
- ★ 認知症対応力向上研修の推進
- ★ 歯科を交えた研究の推進
- ★ バリアフリー化への予算措置

【地域連携体制の構築】

- ☞ 地域において認知症のある人やその家族を支援し、認知症予防や対策を進めていく上では、かかりつけ医をはじめ認知症疾患医療センターや地域包括支援センター、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員など、行政を含めた関係職種による地域連携体制の構築と整備が求められる
- ☞ しかしながら、認知症の疑いがある、あるいは認知症の人を医療・介護サービスに円滑につなぐ仕組みが構築されていない状況が続いている。
- ☞ 基本計画には「認知症の人の口腔機能等の維持・向上のため、専門職による口腔管理等を推進する」とある。研修拡充による人材育成及び口腔保健（支援）センター機能強化と併せて、保健医療サービス提供体制の整備が強く求められる。

【認知症ケアパスの実効化】

- ☞ 早期発見等に寄与する歯科の位置付けが「認知症ケアパス」に記載されていない地域が多い
- ☞ 認知症の人や家族等に必要な情報が提供されるよう、「認知症ケアパス」に歯科との連携が盛り込まれることが求められる

【認知症対応力向上研修の推進】

- ☞ 口腔機能の管理による認知症の疑いがある人への早期発見・早期対応、認知症の人やその家族への理解、地域での多職種による「顔の見える関係」の構築を目指し、研修を推進している
- ☞ 令和4年度に研修教材が改訂され、かかりつけ医や薬剤師の研修教材と共通のカリキュラムが盛り込まれた他、本人の視点を重視したアプローチや意思決定支援、多職種連携などが追加された。令和5年度の改訂では、認知症の人への理解を深める内容や、認知症基本法や認知症に関する最新の医学情報の追加などが行われたほか、最初と最後に本人の声が動画で入れられた
- ☞ 認知症対応力向上研修に係る検討の場が国の事業としてない現況において、人材の確保、養成、資質向上に資するために、「新しい認知症観」を踏まえた研修の構築・教材改訂に早期に着手することが望まれる

【歯科を交えた研究の推進】

- ☞ 歯を失って義歯を使用しないと認知症のリスクが最大1.9倍になると（山本ら、2012年）や、歯周病が重度であるほど、認知機能は低下していること（国立長寿医療研究センターら、2023年）から明らかになっている
- ☞ 認知症の人や家族等を含む国民が広く享受できる環境の整備に向けて、認知症の病態解明・診断法・治療法・介護方法の開発につながる研究を進めるに当たっては歯科を交えることが望まれる

【バリアフリー化への予算措置】

- ☞ バリアフリー化を推奨しているが、昨今の物価高騰等により、設備投資が厳しくなっている歯科医療機関が多くを数えている
- ☞ 認知症の人が安心して歯科診療を受診することができるよう、バリアフリー化への補助に係る予算措置が望まれる